

**4年目における
池田町地方創生の効果検証
株式会社OKB総研**

次第

1. 検証事業の概要
2. 池田町地方創生事業進捗状況
3. アンケート
4. ヒアリング
5. 全国の先進・類似事例から学ぶ
6. 今後の可能性

1. 検証事業の概要

(1) 背景

- ・ 池田町では平成27年に「岐阜県池田町版地方創生総合戦略」を策定し、町民と役場の対話、協働によるプロジェクトを創出・実践してきた。
- ・ 「アイデア工房会議」「池女会」を起点に生まれた多くのプロジェクトが、どのような効果をもたらしたのか。また、今後の持続可能性や継続の必要性についても、得られた成果を適切に評価・検証を進めたうえで決定していくプロセスが重要である。
- ・ KPI（重要業績評価指標）達成率等の定量的評価とあわせ、プロジェクトに参加した町民や町の職員に対してアンケートやヒアリングを通した定性的な評価を行うことで今後の地方創生戦略の検討を行う際の礎となる事業。

2. 池田町地方創生事業進捗状況（一部紹介）

プロジェクト名	町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト	
概要	● 養老鉄道池野駅の駅舎を整備し、まちづくり拠点として活用 ● 平成 29 年 3 月より池野駅駅舎「霞溪舎」の運営を「まちづくり工房運営委員会（任意団体）」が、指定管理を受けている ● 平成 29 年度は、フラッグシップモデル事業を活用して、組織づくりプロデューサー木藤亮太氏を招聘	
KPI 達成状況	コーディネーターが支援したまちづくり活動団体・イベント数	
	最終目標値	5 件
	実績値（29 年度）	4 件
	まちづくり工房運営委員会の独自事業による売り上げ	
	最終目標値	3,000 千円
	実績値（29 年度）	3,072 千円
	まちづくり工房運営委員会の独自事業数	
	最終目標値	2 件
	実績値（29 年度）	4 件
	池野駅駅舎の利用人数	
	最終目標値	28,300 人
	実績値（29 年度）	5,554 人

2. 池田町地方創生事業進捗状況（一部紹介）

プロジェクト名	「山のふもと水さらら」IT・SNSを活用した農産物等の情報発信、販売	
概要	● 池田町の特産品をPR・販売するウェブサイトを構築 ● インターネットユーザー向けに販路を拡大し、知名度や売り上げの向上を目指す	
KPI 達成状況	ウェブサイトに掲載された特産品数	
	最終目標値	20 品
	実績値（29 年度）	38 品
	ウェブサイトの閲覧数	
	最終目標値	15,000 件／月
	実績値（29 年度）	2,971 件／月
	ウェブサイトによる販売額	
	最終目標値	300,000 円／月
	実績値（29 年度）	24,174 円／月

2. 池田町地方創生事業進捗状況（一部紹介）

プロジェクト名	職業体験・キャリア教育を通じて、児童生徒の郷土愛を育む	
概要	- 子どもたちが地元でいきいきと働く大人に触れる仕組みを作り、地元を知る喜びや町への愛着を育むことを目指すプロジェクト - 平成 29 年度に改めて新規メンバーを公募し、町民メンバーと町職員、キャリア教育コーディネーターにより取り組んでいる	
KPI 達成状況	コーディネーターが企業を訪問した数	
	最終目標値	50 社
	実績値（29 年度）	54 社
	新たな職場体験・キャリア教育プログラム受講生数	
	最終目標値	400 人
	実績値（29 年度）	1,080 人
	新たな職場体験・キャリア教育プログラムへの受講生の満足度	
	最終目標値	90%
	実績値（29 年度）	92%
	将来、池田町で働きたいと思う中 3・高 3 生の割合	
	最終目標値	15.7%
	実績値（29 年度）	19%

2. 池田町地方創生事業進捗状況

- 地方創生事業の開始時にKPIを設定。開始時において成果をどこまで見通せるかについては、事業ごとに異なる。単純に達成率だけで事業の評価を決定することはできない。
- 開始時に設定したKPIを事業の進捗状況も見定めながら、数値の変更・目標内容の変更追加など機動的に行うことも検討に値する。

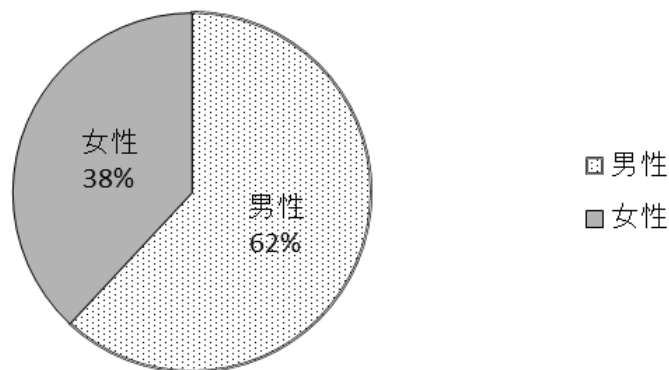
3. アンケート

調査概要

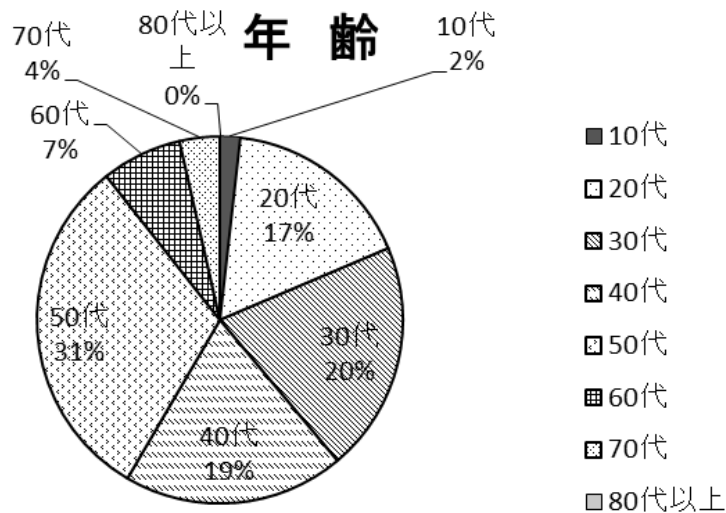
対 象	地方創生プロジェクトに参加された 町民・行政関係者
実施時期	平成30年10月2日～11月20日
手 法	紙の調査票を対象者に郵送または手交
配 布 数	187件（町民122件、行政関係者65件）
回 答 数	113件（町民57件、行政関係者56件）

● プロジェクトには、幅広い年齢層が参加されている

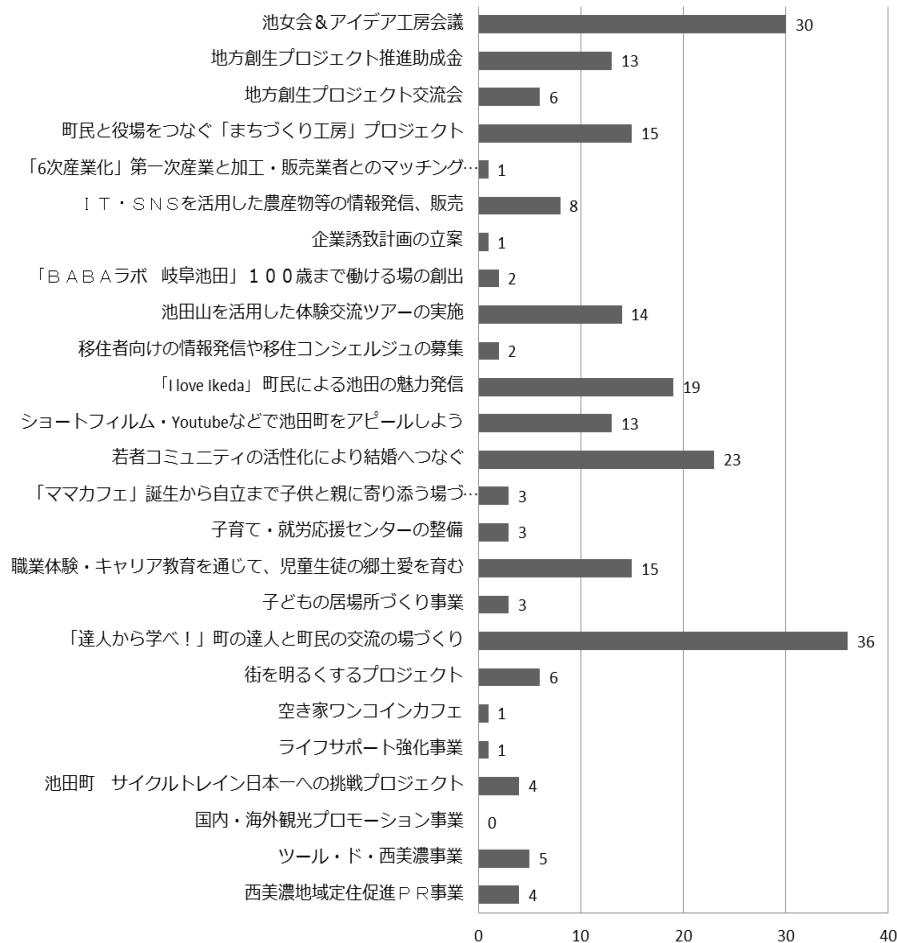
性別



年齢

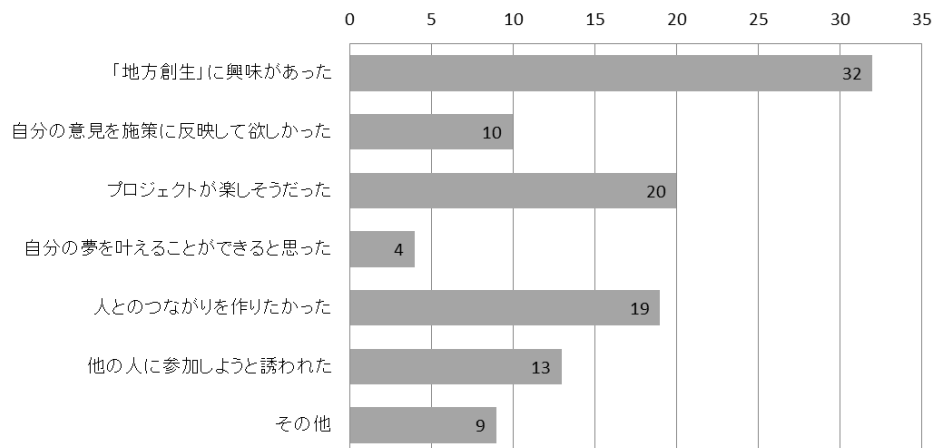


問2 プロジェクト参加状況

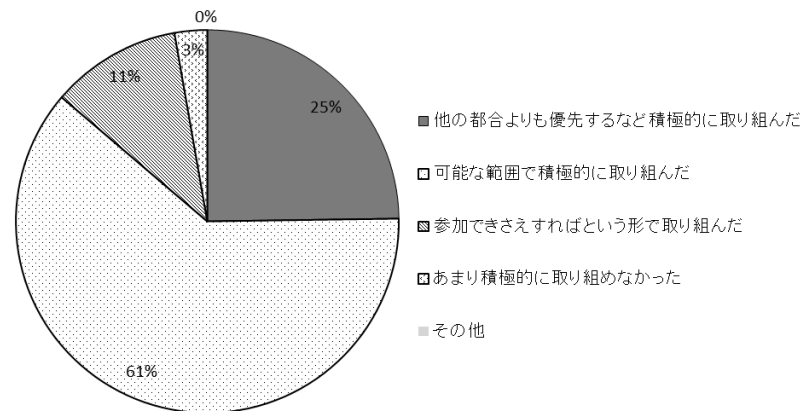


- まずは気軽な気持ちで取り組まれた方が多い
- 総じて参加して満足と回答する方が多い

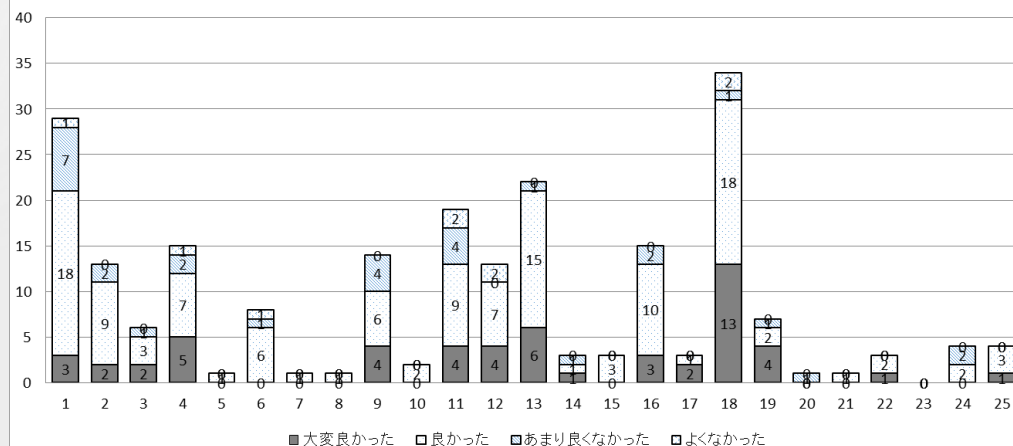
問3 地方創生プロジェクト参加きっかけ



問6 プロジェクト参加意欲



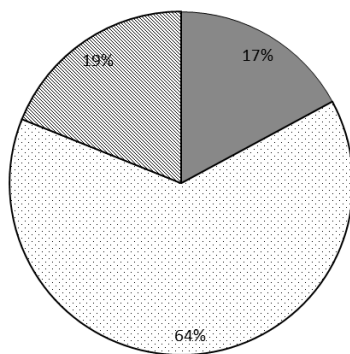
問4 プロジェクト別参加満足度



1 池女会&アイデア工房会議	14 「ママカフェ」誕生から自立まで子供と親に寄り添う場づくり
2 地方創生プロジェクト推進助成金	15 子育て・就労応援センターの整備
3 地方創生プロジェクト交流会	16 職業体験・キャリア教育を通じて、児童生徒の郷土愛を育む
4 町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト	17 子どもの居場所づくり事業
5 「6次産業化」第一次産業と加工・販売業者とのマッチングを促進	18 「達人から学べ！」町の達人と町民の交流の場づくり
6 IT・SNSを活用した農産物等の情報発信、販売	19 街を明るくするプロジェクト
7 企業誘致計画の立案	20 空き家ワゴンコインカフェ
8 「BABAラボ 岐阜池田」100歳まで働ける場の創出	21 ライフサポート強化事業
9 池田山を活用した体験交流ツアーの実施	22 池田町 サイクルトレイン日本への挑戦プロジェクト
10 移住者向けの情報発信や移住コンシェルジュの募集	23 国内・海外観光プロモーション事業
11 「I love Ikeda」町民による池田の魅力発信	24 ツール・ド・西美濃事業
12 ショートフィルム・YouTubeなどで池田町をアピールしよう	25 西美濃地域定住促進PR事業
13 若者コミュニティの活性化により結婚へつなぐ	

- 今後も参加したいと回答したのが8割
- 子ども・若者向けのプロジェクトへの関心が高い

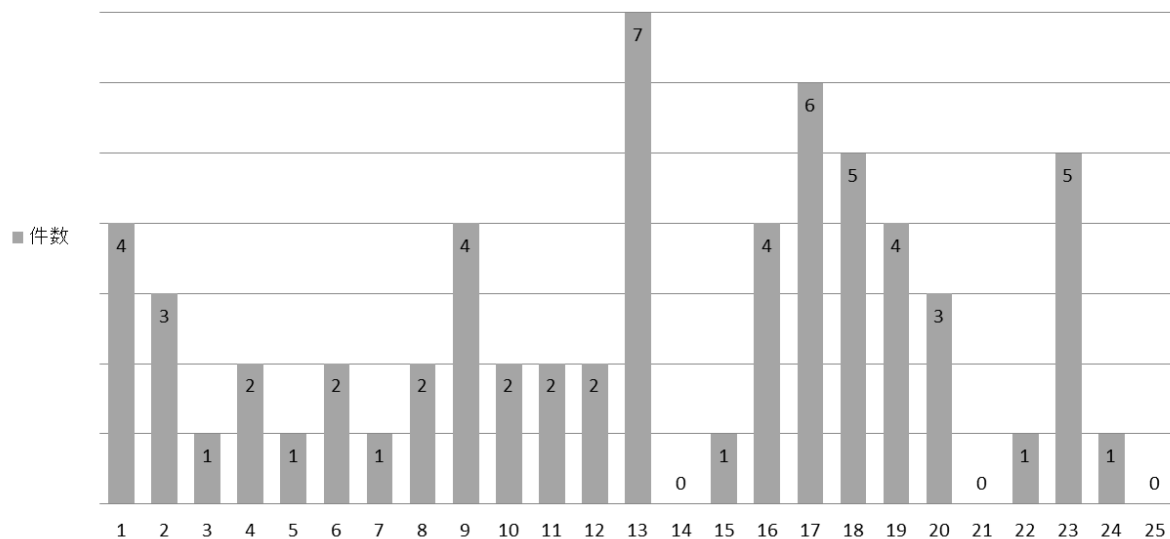
問8 今後の参加意欲



■ 積極的に参加したい □ 都合が合えば参加したい ▨ 参加したくない

1 池女会&アイデア工房会議	14 「ママカフェ」誕生から自立まで子供と親に寄り添う場づくり
2 地方創生プロジェクト推進助成金	15 子育て・就労応援センターの整備
3 地方創生プロジェクト交流会	16 職業体験・キャリア教育を通じて、児童生徒の郷土愛を育む
4 町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト	17 子どもの居場所づくり事業
5 「6次産業化」第一次産業と加工・販売業者とのマッチングを促進	18 「達人から学べ！」町の達人と町民の交流の場づくり
6 I T・SNSを活用した農産物等の情報発信、販売	19 街を明るくするプロジェクト
7 企業誘致計画の立案	20 空き家ワンコインカフェ
8 「BABAラボ 岐阜池田」100歳まで働ける場の創出	21 ライフサポート強化事業
9 池田山を活用した体験交流ツアーの実施	22 池田町 サイクルトレイン日本一への挑戦プロジェクト
10 移住者向けの情報発信や移住コンシェルジュの募集	23 国内・海外観光プロモーション事業
11 「I love Ikeda」町民による池田の魅力発信	24 ツール・ド・西美濃事業
12 ショートフィルム・YouTubeなどで池田町をアピールしよう	25 西美濃地域定住促進PR事業
13 若者コミュニティの活性化により結婚へつなぐ	

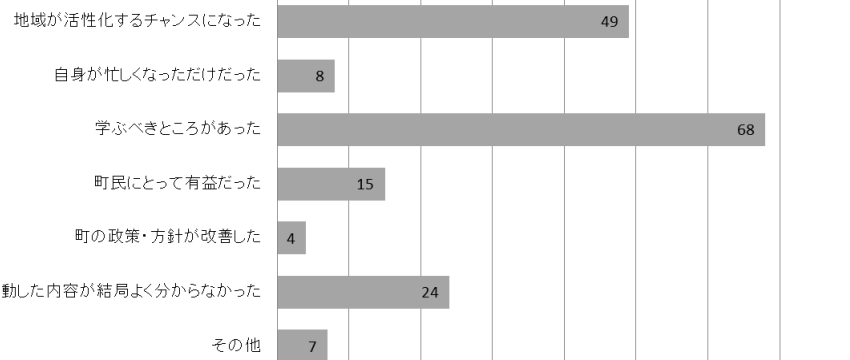
問9 参加したいプロジェクト



- 「地方創生」の取組で“チャンス” “学んだ”と回答する方が多い
- 移住定住・子育て等未来の池田町を支える若者世代向けのプロジェクトが重要との認識

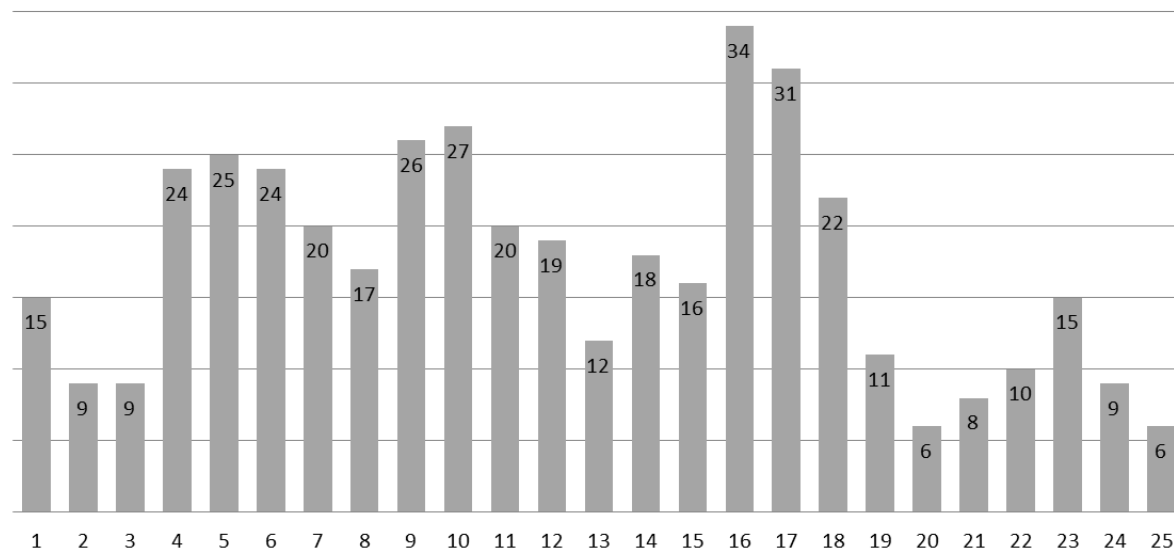
問12 あなたにとって「地方創生」とは

0 10 20 30 40 50 60 70 80



問10 重要度が高いと思うプロジェクト

■ 件数



1	池女会&アイデア工房会議	14	「ママカフェ」誕生から自立まで子供と親に寄り添う場づくり
2	地方創生プロジェクト推進助成金	15	子育て・就労応援センターの整備
3	地方創生プロジェクト交流会	16	職業体験・キャリア教育を通じて、児童生徒の郷土愛を育む
4	町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト	17	子どもの居場所づくり事業
5	「6次産業化」第一次産業と加工・販売業者とのマッチングを促進	18	「達人から学べ!」町の達人と町民の交流の場づくり
6	IT・SNSを活用した農産物等の情報発信、販売	19	街を明るくするプロジェクト
7	企業誘致計画の立案	20	空き家ワンコインカフェ
8	「BABAラボ 岐阜池田」100歳まで働ける場の創出	21	ライフサポート強化事業
9	池田山を活用した体験交流ツアーの実施	22	池田町 サイクルトレイン日本一への挑戦プロジェクト
10	移住者向けの情報発信や移住コンシェルジュの募集	23	国内・海外観光プロモーション事業
11	「I love Ikeda」町民による池田の魅力発信	24	ツール・ド・西美濃事業
12	ショートフィルム・YouTubeなどで池田町をアピールしよう	25	西美濃地域定住促進PR事業
13	若者コミュニティの活性化により結婚へつなぐ		

3. アンケート（まとめ）

- プロジェクトに参加して満足感を得た方は、次回も参加したいと回答するという好循環が見られる。
- 重要だと思う取組に、子ども・若年層向けのプロジェクトを挙げる方が多く、未来への取組を期待している。
- 池田町内の人材育成に寄与し、これからの可能性に期待する声も多い。
- 町民と役場のコミュニケーション向上には一定の成果があったが、改善点も存在。

4. ヒアリング

調査概要

対 象	地方創生プロジェクトに参加された町民・行政関係者で主体的な役割を果たされた方
実施時期	平成30年10月12日～11月13日
手 法	対面ヒアリング （委託事業者であるOKB総研の担当者2名）
実 施 数	31名（町民13名、行政関係者18名）

4. ヒアリング

調査結果

●町民と役場をつなぐ「まちづくり工房」プロジェクト

〈ヒアリング要旨〉

- ・池田町から指定管理の委託を受け、まちづくり工房運営委員会が運営する「まちづくり工房『霞溪舎』」の現状はボランティアメンバーで組織されており、継続に関して負荷が大きい。
- ・地方創生の拠点としての「霞溪舎」の存在意義を明確化し、運営体制の見直し・強化とプロジェクトの再整備が必要。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ 明確な目標がなく、ゼロから作り上げていくことが大変であった
- ・ 人手がなく、ボランティアでの運営は厳しかった
- ・ プロジェクトを介して、新たな人の流れができている
- ・ 霞溪舎は、人づくりの場所としての活用が望ましい
- ・ もう少し広く周知して、活動できる場所になると良い
- ・ 運営体制の見直し、人材の補充が必要
- ・ コーディネーターの存在があると好ましい

4. ヒアリング

調査結果

- 「山のふもと水さらら」IT・SNSを活用した農産物等の
情報発信・販売

〈ヒアリング要旨〉

- ・ ショッピングサイトでのラインナップは米中心であり、
他の産物との組み合わせも、他サイトとの差別化までには
繋がっていない。
- ・ 生産者間の新たな繋がりを活かし、商品開発への発展に
期待。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ 生産者が違う商品を週1回の発送時にまとめる作業が困難
- ・ 生鮮食品をタイムリーに出せないことも売上増加に繋がらない要因
- ・ 米単体での販売増加は難しい
- ・ 米との商品組み合わせに関して、特産農産物がない池田町では野菜しかない
- ・ 生産者同士の繋がりができた
- ・ このホームページを自社商品の宣伝のつもりで上手に使うと良い

4. ヒアリング

調査結果

●「BABAラボ 岐阜池田」100歳まで働ける場の創出

〈ヒアリング要旨〉

- ・ ある程度の収益確保も目指し、道の駅「池田温泉」を絡めた事業展開を進めている。
- ・ シニアの発想によるシニアのビジネスを展開することで、池田におけるシニアの幸せを追求する。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ シニアの発想は面白いが、発信力に課題がある
- ・ 営業面が弱いので、定期的に発信する場を作ってもらえると良い
- ・ 営業コーディネーターの存在が必要
- ・ パソコン・営業・データ作成等、シニアが出来ない作業をする人が必要

4. ヒアリング

●池田山を活用した体験交流ツアーの実施

〈ヒアリング要旨〉

- ・ 町民に池田町の良さを知ってもらうためのプロジェクトだが、最近は参加者が減少傾向。
- ・ 他プロジェクト「達人に学ぶ」に類似するところもあり、類似事業の統一は検討事項。
- ・ バーベキュー場は利用客も年々増えており、町外へ地域の魅力周知にも活用できる。また、収益による自主運営の可能性も期待できる。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ イベントの開催時期や回数を検討した方が良い
- ・ 企画が「達人に学べ」と類似してきた
- ・ 観光PRが上手くできていない
- ・ チラシはすべての町内の学校に配布して家庭に届くようにしたり、町外に置くことによる効果も期待したい
- ・ 商店街を利用した体験を入れ、商工会事務局が中心となって運営することで町内商工業が活性化するのではないか
- ・ 池田町ですべての観光ニーズに応えるのは難しく、地域連携の必要がある

4. ヒアリング

● 「I love Ikeda」 町民による池田の魅力発信

〈ヒアリング要旨〉

- ・ ある程度専門性を求められるプロジェクト。
- ・ 町民有志や池田高校生が編集員として町内のスポットを取材し、「いけ本」を発刊。
- ・ 出来栄えに対する評価は良好であるが、町民の浸透度が不明なこと、また町外に配布できるほどの部数を作成していないため魅力の浸透、発信の効果はやや限定的。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ 行政だけではできなかった事業
- ・ 手元に届いているか、見てもらっているのかは不明でPRに繋がっているかわかりにくい
- ・ まちの魅力を発信する機会になったとは思いますが、有効な手段で大きな効果があったかは疑問
- ・ ボランティアのメンバーにとって活動費の補てんが無いのは厳しい
- ・ 池田町にはいい人がたくさんいることがわかった

4. ヒアリング

- ショートフィルム・YouTubeなどで池田町をアピールしよう

〈ヒアリング要旨〉

- ・ 池田町をPRするためのドローンを活用した動画と、池田町民の地域理解を深めるための地域住民参加型動画の2本を作成。
- ・ YouTube・サイネージ・道の駅・HPなどで公開しており、露出の機会を確保しているものの、浸透度合いは十分とはいえない。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ 地元の人でも知らない景色や、周りからいい町だと言ってもらえる作品を作りたいかった
- ・ ショートフィルムは作るだけで終わってしまい、活用できていないので、観光プロモーションとして活用してほしい
- ・ 若者にはFacebookやインスタグラムなどSNSを活用して露出に繋げるのが効果的
- ・ 役場には硬いイメージがあったが、今までより入りやすくなった。

4. ヒアリング

●若者コミュニティの活性化により結婚につなぐ

〈ヒアリング要旨〉

- ・若者が集まるきっかけづくりとして同窓会を深化させ、結婚へつなぐ婚活イベントを実施。
- ・婚活イベント参加者の評判は良好だが同窓会は同窓会で終わってしまい、結婚相談所のようなフォローも難しく結婚までは至らない。
- ・このプロジェクトを継続するにも町民主体では困難であり、他のプロジェクトとのコラボも検討するなどして、事務負担や助成金について考慮する必要がある。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ 同窓会はそれだけで終わり、婚活には進展しなかった
- ・ 活動が長続きしないのは助成金に頼っているのが原因ではないか
助成金を利用しなくてもやれる工夫が必要
- ・ 事務的なことを町民に任せるのは負担が大きい
- ・ 町や業者とつながりができたので、他のプロジェクトにも関わる
ことができた
- ・ 商工会青年部とコラボすれば、事業所の参加者も増えると思う
- ・ 結婚相談員と連携し、カップルの定期的フォローをしてもらえると
良い

4. ヒアリング

●「ママカフェ」誕生から自立まで子どもと親に寄り添う 場づくり

〈ヒアリング要旨〉

- ・子育ての悩みなどを参加者同士で話すことで、スッキリしてもらうくらいの、緩やかな繋がりの広がりを狙っている。
- ・イベントは癒しとなる講座やママの学び場となるよう、メンバーができること、やりたいことを企画して実施。
- ・誰もが気軽に参加できる交流場所づくりを目指している。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・参加者が多すぎてもまとまらなかったなので、イベントは10人前後を目安に募集して開催した
- ・立ち上げ時は役場に何度も相談し、要望も受け入れていただけて、ミーティングへの参加やアドバイスをもらった
- ・参加者同士やプロジェクトメンバーに子育ての話とか悩みを話して、スッキリして帰ってもらおうという趣旨で進めていた
- ・子育て中でも、資格や得意分野を持つママたちに、講座の場所として活用してもらいたい
- ・他のプロジェクトとは趣旨が一緒であれば一緒にやっていきたい

4. ヒアリング

- 職業体験・キャリア教育を通じて、児童生徒の郷土愛を育む

〈ヒアリング要旨〉

- ・現状は2名のキャリアコーディネーターの頑張りによるところが大きい。
- ・企業訪問と「15のリアル」の民間協力も得られ、取組の結果は良好である。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ 体験学習は子どもによって尺度が違うので、満足度を把握することは難しい
- ・ 立候補制で行きたい企業を選択するが、企業受入の人数が限られているので、子どもの意に反する場合もある
- ・ プロジェクトを進めるには学校側の負担も大きい
- ・ 周知されていないのか、町民からの反響があまりない
- ・ キャリア教育について相談できる町内の人材発掘につながった
- ・ 学校へキャリア教育の時間を確保してもらうよう働きかけていく
- ・ 子どものキャリア教育が地域の大人を巻き込むことによって、何か良い発展があると良い

4. ヒアリング

●「達人から学べ！」町の達人と町民の交流の場づくり

〈ヒアリング要旨〉

- ・ 交流の場を作るための実行委員会を組織し、体験型のイベントなど達人と参加者との交流のきっかけとなるようなイベントを企画、実施。
- ・ イベントの企画により集客に差は出るが、受講後の満足度は高い。
- ・ 達人および候補者から積極的に手が上がることは少ない。
- ・ 現状は行政主体で企画、講座の選定をしている。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ 現状は、職員担当でアンケートを参考に講座の見直しや企画をしている
- ・ 講座によって参加人数の偏りが出てしまう
- ・ 参加者が多い講座は、受講後に教室へ通う人もいたので、継続することが望ましい
- ・ 役場が全面的にバックアップ、PRから発表までのスケジュールも綿密に打ち合わせしてもらえてありがたかった
- ・ 自分が学んだこと、自分の思いを小さい子から高齢者の方まで伝えることができてよかった
- ・ いろんな人と繋がることができ、それが一番の宝物になった

4. ヒアリング

●揖斐池田サイクルトレイン日本一への挑戦プロジェクト

〈ヒアリング要旨〉

- ・ 揖斐川町とも協力し、池野駅、道の駅「池田温泉」、揖斐駅の3カ所を拠点とした養老鉄道のサイクルトレインを活用したレンタサイクルプロジェクト。
- ・ 商店などのオアシスポイントへの利用は少なく、町への経済効果は限定的。
- ・ レンタサイクルで町内を回遊する利用方法が浸透しておらず、利用率向上に向けた取組を進めなければ、維持費用の捻出が困難と考えられる。

4. ヒアリング

〈ヒアリング詳細〉

プロジェクト参加者からの意見

- ・ レンタサイクルの利用がマチュピチュ茶園への交通手段に集中してしまった
- ・ オアシスポイントの利用が少なく、町内のお店にお金が落ちる成果が出ていない
- ・ 道の駅からのルートは山麓道路で目的地との往復になっている
- ・ 交通手段としての利用は少なく、町外への移動はほぼない
- ・ 自転車は町内利用に留まり、電車への自転車の持ち込み利用もほぼ無い
- ・ 町の立ち寄りスポットづくり、発信をする人が必要

5. 全国の先進・類似事例から学ぶ

これまで池田町が取り組んできたプロジェクトに類似する全国の事例と、基本目的の踏襲や見直しを判断するうえで参考となる先行事例を57抽出した（本日は一部紹介）。

これらの事例から方針決定のプロセスや運営手法を習得し、今後のプロジェクトの継続と目指すべき方向性を検討する材料としたい。

概要

- 定期利用者の減少、老朽化による駅舎の解体・簡易官舎への建て替えが検討される中、住民から解体反対の声が相次ぎ、町の玄関口である日野駅駅舎を「まちの宝」として再生。
- 費用の57%を地元の住民が負担、土地も地元の村が買収した上で近江鉄道に寄付。
- 駅舎内にコミュニティスペース観光案内交流施設「なないろ」の設置。

（運営：一般社団法人こうけん舎・日野観光協会）

「日替わり店長システム」で楽しいイベントや美味しい食事を提供するお店、楽しくくつろげるカフェを日替わり開催。



類似点・参考点

- レトロな駅舎として存続するも定期利用者は減少し、ローカル鉄道の現状は厳しい。
- 駅をまちづくりの新たな拠点として、交流が目的なら誰でも利用可能な交流施設を設置。
- 「なないろ」は、地元住民で結成した一般社団法人が運営。起業を考えている人、ネットワークを広げたい人、自分の自己表現の場を持ちたいと考える人達のための場として、解放・維持・発展させていくことを目的としている。
- 地元の高校生も「商品開発販売実習」の一環として、月1回「日野高校生カフェ@Home」を開催し、駅舎活性化に貢献。

今後の考察

- 駅舎が駅の利用者や町民が一息つける憩いの場とするのであれば、調理飲食設備や駅舎設備を整え、カフェやイベントスペースとして提供することが有効。
- 観光や人々の交流の創出を活性化するうえで、定期的な固定イベントも盛り込み、町の魅力を発信できる方法を模索する必要がある。運営管理も効率的な仕組み（日替わり店長システム）を導入。

概要

- 他の市町村とは合併せず単独で生き残る選択をした900人の村が、有機循環農法でゆずづくりに取り組む。
- 村民＝農家が大半を占め、馬路村の農協で働く職員の多くはゆずの農家であり、農協として農家として団結、**自分たちで商品開発から製造・販売まで行い「日本一のゆず村」となる。**



類似点・参考点

- 四国山脈のふもとに位置し、急峻な山々に囲まれた馬路村は豊富な雨と深山から出する良質な水、村の面積の96%を占める森林の豊かな自然に恵まれている反面、平地が少なく昼夜の寒暖差が激しく農産物の生産には適していない。
- 逆にその気候がゆずにとっては好条件であり、スッキリとした酸味が抜群のゆずを村の特産品として加工販売に至る。
- 物産展での宣伝やテレビCM、アンテナショップの出店、ショッピングサイトを立ち上げるなど全国へPR。
- 村に「ゆずの森」をつくり工場見学誘致や馬路村農協に「おもてなしのコールセンター」を設置し販路を確立。
- 平成29年には、**馬路村を含む「ゆずロード」が日本遺産に認定。**

今後の考察

- 村の特産品であるゆずの加工品開発に尽力を注ぎ、どうしたら売れるかをあらゆる側面から見直し、改善の取組をしたことが結果に繋がった事例。**「馬路＝ゆず」の定着を目指し、サイトも売るために分かりやすい仕様**となっている。
- 山村の知名度アップと雇用拡大は村民の知恵と農協・行政との連携があって成し得たことであり、官民連携を軸に生産者同士を繋ぎ、**地元特産品の見直しと情報発信力の強化および販路を作ることが必要。**

概要

- 山間地域に位置する能勢町は近年、少子高齢化が進み「消滅可能性都市」にもランキングしている。
- そのような状況の中、**小学校・中学校が統廃合**となり、能勢高校は平成16年度から大阪府**公立高校初の連携型中高一貫教育制度**をスタート、同時に総合学科に改編する。
 - ＜能勢町＞人口約1万399人、高齢化率約36.8%の中山間地域（平成29年10月現在）
 - ＜能勢高校＞1学年80人の小規模校
- 少人数指導を軸にきめ細かい丁寧な教育やキャリア教育にも力を入れている。



類似点・参考点

- 年度当初に能勢町の全教職員が顔合わせをし、「能勢町小中高一貫教育総会」において活動の共通認識を図る。
- 小学生を農場に招いての交流授業、中高教員の相互派遣による授業の実施。
- 中学生の高校見学、授業体験、クラブ体験、中高合同授業の実施による小中高の連携を体系化。
- 国際的な取組としては、オーストラリア交流研修やゲストスピーカー招致による「総合的学習」の実施。
- 雇用拡大プロセスとして、地域の専門家から食品製造や食品加工の指導。
- 平成27年3月、文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール」に認定され、今後一層の国際協力・地域貢献を目指す生徒の育成に取り組む。
- **まちぐるみ応援団「能勢高校を応援する会」の結成により、地域との信頼関係を構築**する新たな基盤ができた。留学生の受け入れや、町内福祉施設とのボランティア活動の連携など町内活性化につながった。

今後の考察

- 統廃合を契機に新たな教育プログラムを組成。学校と地域の関係性を重視した取組内容。

概要

- 平成23年より、高齢者の「日常のちょっとした困りごと」を解消する暮らしのサポートに取り組む。
- 生活支援サポーターとして登録した市民が、善意で高齢者の生活のお手伝いをする仕組みで、この事業は平成23年度に始まり、現在140余名が登録している。
- 介護保険や高齢者福祉制度などでは対応できない、買い物付き添いや通院付き添いなどサービスにつながるまでの短時間の支援を行っている。

類似点・参考点

- 支援を受けられる対象は、高槻市内在住でおおむね65歳以上の方。
- ボランティアによる活動の為、利用は無料。（活動にかかる交通費などの実費は負担）
- 利用できるのは、平日：午前9時～午後5時（土日祝は休み）、サポーターの活動は1回2時間程度。
- サポート内容は、通院や外出の付き添い・買い物の同行、代行・掃除（お風呂掃除、換気扇の掃除、部屋の片付け、季節の衣類整理など）・電球の交換・日常の生活ゴミ出し（短期間）、大型ゴミ出し・解体のお手伝いなど。
- 高齢者を支えるサポーターを募集し、養成講座を開催。
- サポーターは、その活動の時間数に応じポイントが付与され、1年間で貯まったポイントは10ポイントで商品券1枚と交換できる仕組みとなっている。（上限10,000円まで）



今後の考察

- 介護保険サービスにも制限があり、制度狭間で困っている高齢者の支援として役立っている。
- サポーターについても、短時間活動のため無理がなく労働時間が明確で、ポイント還元といった仕組みにより相互利用しやすい形となっている。

6. 今後の可能性

● 池田町地域人材力アップ

町民の発案による
プロジェクト実践



人材発掘

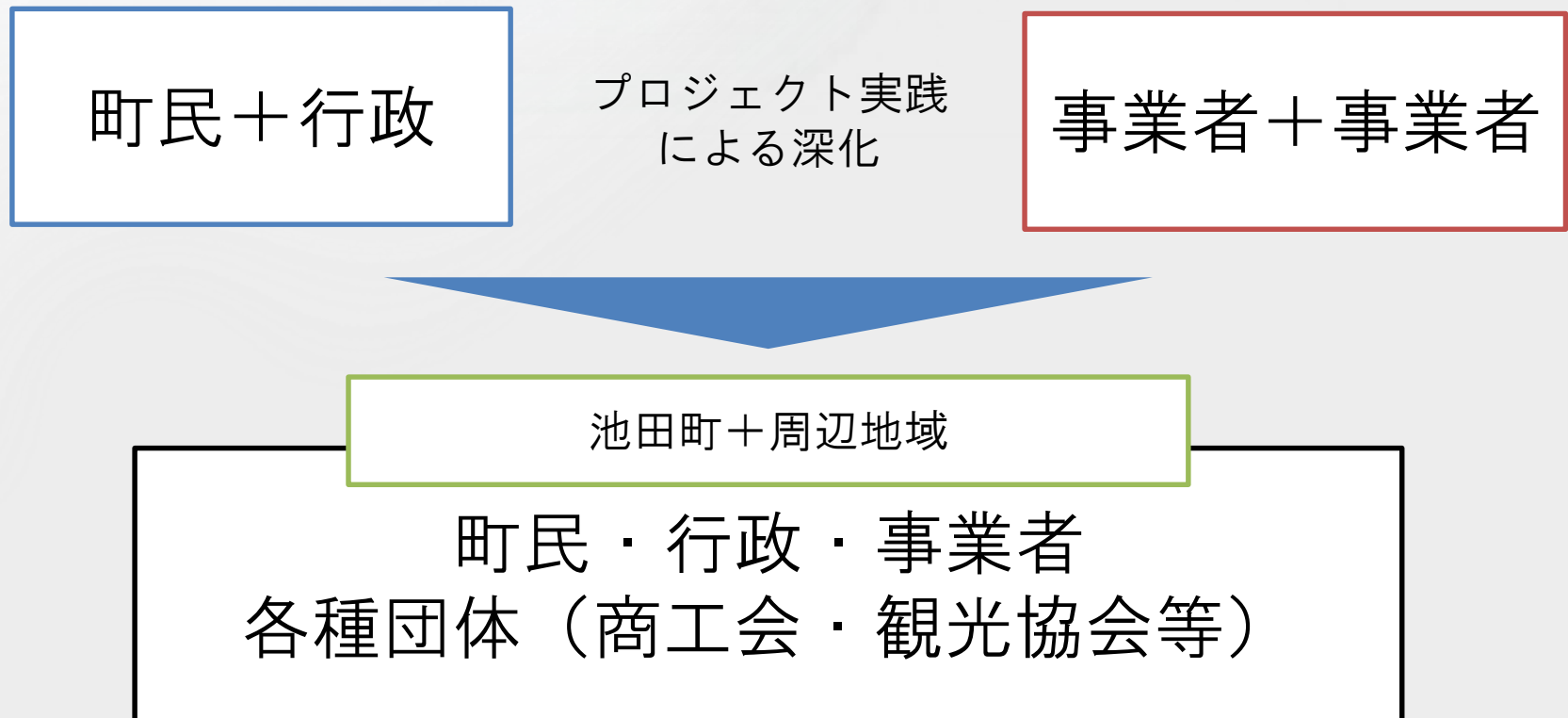
町全体の実践力
アップ



ベースが確立

6. 今後の可能性

●事業の進め方



6. 今後の可能性

- 将来に向けて

池田町
地域人材力



行政の確固たる
方針



真の地方創生